

ジャンボ渡辺の学 富士山

富士山の山梨側の登山道「富士山吉田口登山道」が文化庁の「歴史の道100選」に選ばれたのは1996年です。江戸時代には、富士講信者の巡礼路としてにぎわった道です。現在の富士山観光は5合目から山頂にかけての登山に偏っていますが、こうした歴史の道にも注目していかげでしょうか。

吉田口登山道の整備

大石茶屋跡があります。緩やかな坂道を登ると馬返に着きます。富士山は山麓から頂上まで、①草山②木山③焼山の三つに区分されるのですが、馬返は草山と木山の境界でした。ここから先は聖域とされました。今も山小屋「大文司屋」や188年前に建立された石造鳥居、2カ所の山小屋跡があり、かつての霊山としての雰囲気を感じさせています。



渡辺豊博さん

「歴史の道」の魅力発信を

鳥居をくぐり山道を登ると、鈴原社(大日社)がある1合目に着きます。1530年の文獻「勝山記」にも登場する信仰施設で、以前は境内に鳥居や拝殿、本殿、手水鉢などがありません。こうした山小屋や信仰施設は、江戸後期の絵図「富士山明細図」や「富士山真景之図」にも描かれていて、富士講を裏証する歴史的な遺構です。



「馬返」に点在する石造物



山小屋「大文司屋」前の石造鳥居。提供：筆者

5合目まで行けるようになりました。それ以降、吉田口登山道の登山者は激減し、山小屋の営業が困難になりました。かつてにぎわった巡礼路は荒廃し、老朽化した信仰施設や石造物は壊れたり消失したりしました。鈴原社の施設も今は閉鎖され、一部は壊れています。周辺にあった富士山信仰を示す多数の石碑も散乱しています。霊山としての巡礼路が、人々の記憶から消えていく危険に陥っています。93年に世界遺産登録されたスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラの巡礼路を存じでしょうか。キリスト教の聖地に続く道です。最盛期の12世紀には年間50万人、現在も10万人の巡礼者がフランスからピレネー山脈を越え、約800キロの道を歩いています。

この巡礼路の拠点の街では、歩いたことを証明する手帳を受け取れます。礼拝堂を修復した無料の宿泊所も完備されています。この宿では、巡礼者の足を水で清める「洗足の儀式」が体験できます。この例のように吉田口登山道も整備し、山小屋や遺構を再建すれば、富士山の多様な魅力を世界に発信できて面白いと思います。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)